

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより

いこいの森

患者さまを中心として、質の高いつ安全な医療を提供します

小児外科外来で扱うお子さまの疾患

小児外科 部長 脇坂 宗親



当院では開院以来、診療科として小児外科が開設されています。新生児外科疾患においては、周産期センターとの連携により、母体搬送・産院からの新生児疾患に関わります。乳児・学童においても救急対応が可能で、小児科医との連携のもとに集学的治療が行われます。今回は、緊急疾患以外の日常外来で扱う小児外科疾患を御紹介します。

《小児鼠径ヘルニア》

小児の鼠径（そけい）ヘルニアは、小児外科で手術される最も多い病気です。小児の鼠径ヘルニアは、先天的な要因で発症します。本来であれば出生までに閉じる腹膜鞘状突起（ヘルニアザック）が閉じない場合があります。そこに腸などの腹腔内組織が入り込み（脱腸、女児では卵管や卵巣の場合もあります。）、鼠径部が膨らみます。通常痛みなどは伴いませんが、嵌頓（かんとん）ヘルニアという腸管が挟まった状態になると激しい痛みや嘔吐が出現します。嵌頓は乳児期に起こることが多いので、鼠径部の腫れをみたら、早期に受診してください。手術方法は成人とは違います。当科では従来の鼠径部切開法に加え腹腔鏡を用いた手技も取り入れています。どちらの手術も希望があれば付き添い可能な1泊2日の入院で施行でき、外来で手術法を家族と検討し決定しています。

《臍ヘルニア》

臍の緒が取れた後に、お臍が飛び出してくる状態が臍（さい）ヘルニアです。本来は、完全に閉じる臍帯附着部の臍輪閉鎖不全が原因です。触れると柔らかく、圧迫するとグジュグジュとした感触で簡単に戻りますが、泣いて力が加わると元に戻ってしまいます。ほとんどの臍ヘルニアは、1歳頃までに自然に治ります。しかし1～2歳を越えてもヘルニアが残っている場合には、手術が必要になることがあります。また、ヘルニアは治っても皮膚がゆるんで臍が飛び出したまま（いわゆる出臍）になることがあり、これには当科で行っている早期からの圧迫療法が効果的です。

《便秘症》

便秘症は、小児にもとても多い病気です。単なる便秘で手術が必要になることはありませんが、その中に新生児・乳児期に手術を行わないと生命にも関与する疾患も隠れています。また、便秘症は十分な治療が行われないと、腹痛、食欲不振、便失禁などを呈し、正しい診断・治療が必要です。子どもの便秘と軽く考えるのではなく、我々専門医に相談してください。

《その他》

上記以外にも陰嚢水腫、停留精巣、正中頸嚢胞、肥厚性幽門狭窄症、リンパ・血管腫など多岐にわたって担当しております。漢方を使用した治療も行われますので、又の機会にご紹介したいと思います。外来日以外でも、状況に応じて診療可能ですので、ご相談・お問い合わせください。

シリーズ
部署
紹介 # 13
看護部



看護部には現在、618名の職員（常勤・非常勤）が在籍しています。この人数は全職員の6割に当たり、看護師463名、保健師、助産師がそれぞれ27名、保育士、事務、看護補助者86名を、病棟、外来、検査部門等、21部署に配属しています。

同じ免許を有していても、勤務する部署により担当する業務内容は異なり、求められる知識、技術にも違いがあります。各部署の中で一人前になるまでには、最低でも3年間が必要です。そこから個々のキャリアデザインに基づき、

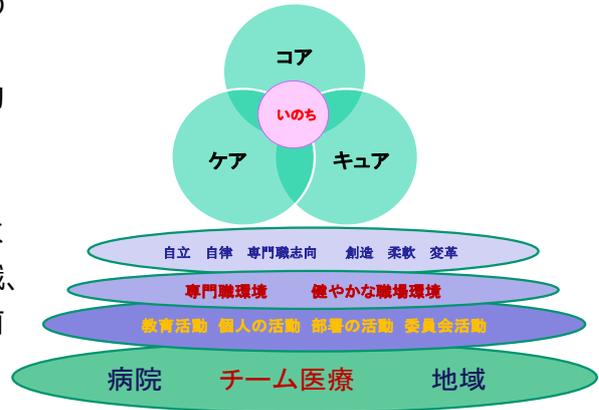
同部署で経験を重ねる人、別の領域に異動する人、専門、認定看護師といった資格を取得する人もいます。

高齢患者さんが増え、在院日数が短縮する中、医療チームの一員として、医師、薬剤師等、多職種と連携し、急性期の治療の先にある患者さんの生活を見据え、「その人らしさ」を大切に安全で安心な看護を提供できるよう24時間体制で取り組んでいます。

西部病院看護部の理念・看護モデル

人間としての尊厳を守り、質の高い看護を提供し
健康的な生活を支援する

高い実践能力(知・技・心)
継続性のある看護の提供
責任ある職務遂行(自律)



看護部 部長 伴 真理子

ナースコールの更新について ~これからも「つながる安心」をお届けします~

開院 30 周年を迎え、西部病院と共に歩んできたナースコールが生まれ変わります。

患者さんが使用するナースコールと共にベッドサイドのライトも新しくなり、明るさが変えられるようになります。また、ベッドサイドのネームプレートもデジタル化され、必要なときに必要な情報を必要な人だけに表示するため、プライバシーの保護にもつながります。現在ご入院の方には、取り付け工事等でご迷惑をおかけしますが、新しいナースコールでケアを必要とされる方々に、これからもより安心できる療養環境を提供していきたいと思いをします。



看護部 師長 吉本 清美

消化のよい食事とは！？

風邪の症状や下痢、熱などで病院を受診すると、「消化の良いものを食べてください。」と言われることがあります。これはウイルスなどにより消化機能が低下しているため胃にとどまる時間が短く、消化に負担がかからない（胃腸に刺激が少ない）ものを食べましょうということです。人間の体は口から肛門までは1本の消化管から出来ていて食べものは約8m移動してその間に必要な栄養素は吸収され不要なものは排出されます。口から摂取したものは、平均的に胃の中では3～5時間、小腸の中で5～8時間、大腸の中で10～20時間ほどの時間をかけて通過すると言われています。食べた食材や調理法、食事量、性別、年齢、体調により、消化に要する時間にかなり差があります。

では、どんなものが「消化の良いもの」なのでしょう。

1. やわらかく温かい料理

お粥や煮込みうどんなど柔らかく煮た料理が最適です。野菜は生野菜より温野菜やスープにして煮込むとよいでしょう。

脱水気味な時は特に具沢山の味噌汁や野菜スープも有効です。



2. 消化に時間がかからない

たんぱく質はささみや鶏の胸肉や卵、豆腐など脂質が少ないものを、野菜は、ほうれん草、大根、かぶ、きゃべつ、じゃがいもなど水溶性食物繊維のものを選びましょう。また、香辛料やアルコール、味の濃いものはさけましょう。

3. 良く噛んで何度かに分けてゆっくり食べる。

一度にたくさんの食べものを食べると胃に負担がかかるので良く噛んで、数回にわけて食べるとよいでしょう。また、ゆっくり噛んで食べるという行為が消化管をいたわることにつながります。

4. 上手に水分補給をする。

高熱、嘔吐、下痢の症状がある場合は、体の中の水分が不足し脱水が起こりやすくなります。スポーツ飲料や経口補水液などを回数にわけて飲みましょう。



冷たいまま勢い良く飲まずに常温で飲んだほうが腸に対して刺激がなく、体にやさしいです。人間の内臓は、摂取したエネルギーの70%を消化吸収する労力として費やしています。体が疲れていると感じた時や体調不良の時は毎日休まずに消化吸収を行ない働いてくれている内臓をいたわるために「胃腸に負担のかけない食生活」を意識してみたいかがでしょうか。

栄養部 副部長 清水 朋子

～栄養相談室からのおしらせ～

糖尿病や腎臓病の食事療法はもちろんですが、食事が摂れない、食事が飲み込みづらい体重が減少し体力がない、栄養状態に不安がある等、管理栄養士が病状にあった食事、食品の選択や調理上の注意、栄養補助食品、宅配食などについて食事や食生活に対する総合的な栄養の指導をさせていただきます。



「栄養食事指導」は**予約制**となっておりますので、主治医・担当医にお声かけください。

